FACULTY OF LAW

北海学園大学
法学部報

2017.8.20
No.37

2年次に、学科選択せい?

http://law.hgu.jp

Student's Discussion

法学部座談会

◎参加学生

結城 郁弥 さん
1年

山下 涼華 さん
1年

渡辺 翔太 さん
2年政治学科

岡島 広希 さん
3年法律学科

◎参加教員

村上 愛 先生

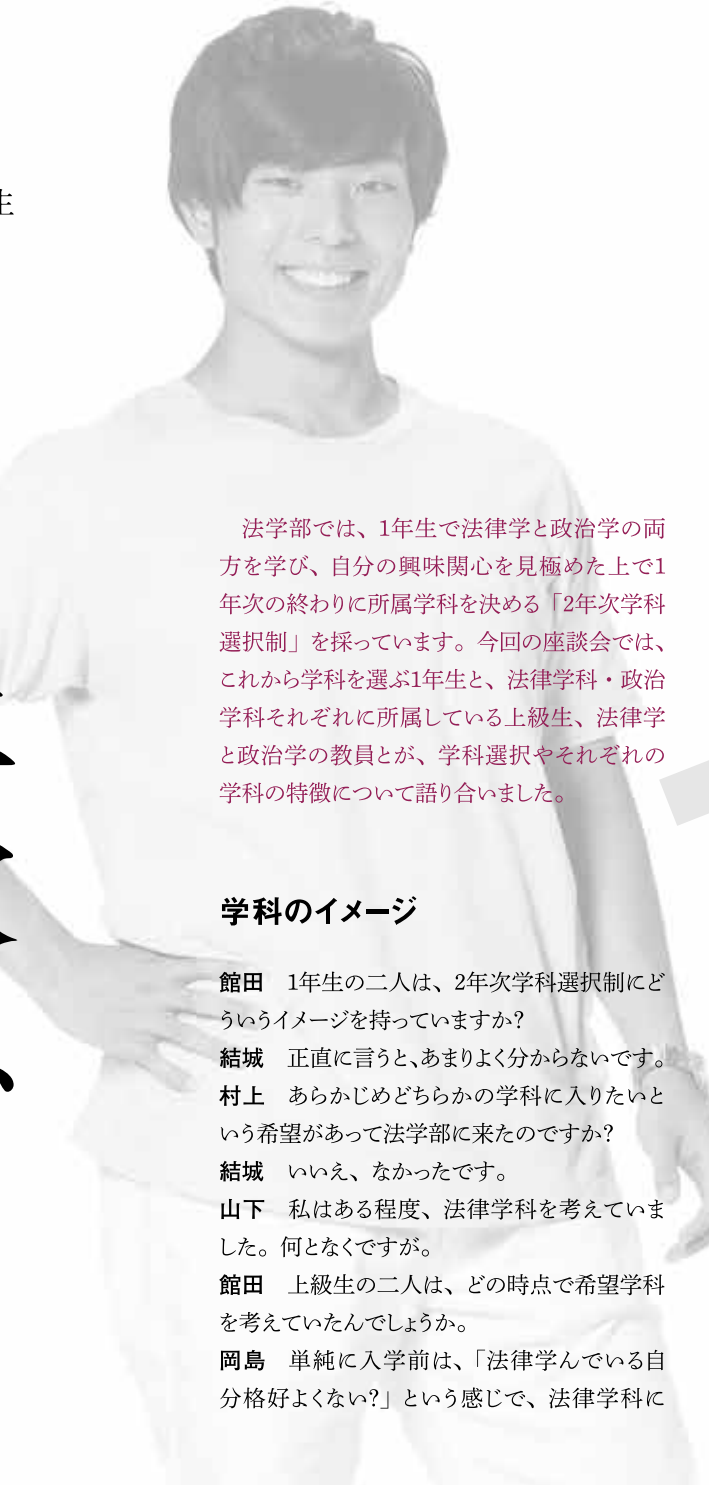
山本 健太郎 先生

後藤 聡 先生

◎司会

館田 晶子 先生

2年次に、学科選択せい？



法学部では、1年生で法律学と政治学の両方を学び、自分の興味関心を見極めた上で1年次の終わりに所属学科を決める「2年次学科選択制」を採っています。今回の座談会では、これから学科を選ぶ1年生と、法律学科・政治学科それぞれに所属している上級生、法律学と政治学の教員とが、学科選択やそれぞれの学科の特徴について語り合いました。

学科のイメージ

館田　1年生の二人は、2年次学科選択制にどういうイメージを持っていますか?

結城　正直に言うと、あまりよく分からないです。

村上　あらかじめどちらかの学科に入りたいという希望があって法学部に来たのですか?

結城　いいえ、なかったです。

山下　私はある程度、法律学科を考えていました。何となくですが。

館田　上級生の二人は、どの時点で希望学科を考えていたんでしょうか。

岡島　単純に入学前は、「法律学んでいる自分格好よくない?」という感じで、法律学科に行きたいと思っていました。授業を受けていくうちに、政治より法律のほうが学びやすいと感じて、法律学科を選びました。

館田　じゃあイメージ通りだったんですね。

岡島　はい。格好いい自分になりたかったので。

館田　実際いまどうですか?　格好いい自分になれてる?

岡島　格好よくはないですけど、ちゃんと目指していた感じにはなれていると思います。

館田　素晴らしいですね。渡辺さんはどうですか。

渡辺　自分は政治に興味があってこの大学に入学したので、入学時から政治学科希望でした。1年次の基礎ゼミで色々学んで、法律にも興味が出てきて、最後は法律学科にするか政治学科にするか相当迷いましたが、最終的には政治のほうが好きで政治にしました。

村上　他大学の法学部では、入学時に学科を決めるところもありますが、受験するときにその違いは考えましたか?

岡島　受験生の時は全く意識していません。

渡辺　自分もです。

岡島　この大学は、1年次に両方勉強して視野を広げてから2年次で学科を選べるので、素晴らしいと思います。

渡辺　自分もそう思います。どちらも学んでおいてよかったです。

館田　1年の頃からがっちり専門科目を学べれば、余計な勉強をしなくて済む、という考え方もあるけれど。

岡島　それでは視野が狭くなります。政治学を学んでおくと、法律学でも役立つことがあるので、両方学ぶことに意味はあると思います。

渡辺　とくに1年生で学ぶ政治学は、そういう部分が多いです。政治と法律は全然関わりがないわけではないので、両方学ぶのはいいと思う。勉強したくなければ選ばなければいいだけです。

学科選択と将来

館田　迷ったときに、何が決め手になりましたか?
村上　友達に相談したとか?
渡辺　政治学は単位を取るのが法律学に比べると楽なんですよ。先輩にもそう言われました。単位を取る以外にも大学生としてやりたいこともあるから、そこが選択の決め手になりました。
村上　政治は一つ一つの科目が、単位がとりやすいという意味ですか?
渡辺　そうです。一つ一つの科目が、単位を取りやすいです。
村上　取りやすいというのは、勉強しやすいという意味?
渡辺　そうです。政治は勉強しやすいですが、法律はめっちゃ覚えなきゃいけないです。
館田　単位については、法律学科の岡島さんはどう思ってますか?
岡島　単位の取りやすさや勉強量からすると、確かに政治のほうが楽です。僕も実際、政治学科の科目を受けてみると、そう感じます。ただ憲法や民法など、法律学科で学んでおくと公務員試験で使えるものもあって、のちのち楽だと思います。
渡辺　その通りですね。
村上　政治も勉強しておくとのちのち役に立つ、ということはないんですか。
渡辺　それは難しいですね。
山本　うん、それは難しいですね。
結城　僕は将来、公務員を目指しています。いまの話を聞くと、将来を考えれば法律学科のほうがよさそうな気がします。

司会：館田 晶子 先生

岡島　公務員の勉強は大学の授業とはまた別にやるので、どうしても法律学科でなければならないということではないですけどね。
山下　私は、裁判官を含む公務員を目指しているので、法律学科のほうが将来につながると考えています。
館田　法律の専門職を目指しているんですか?
山下　大学入学前は、法律を使わずに受験できる消防や警察を目指していました。でも、入学後に法律を使って人を助けることもできると知って、公務員試験を目指すようになりました。
館田　その時に、法律専門職も考えるようになった?
山下　親戚に裁判官がいて話は聞いていましたが、高校までは本格的に法律を学ぶ機会がなくて、どういうものか分からなかったので。
館田　2、3年生は、今勉強していることと将来とを結びつけて考えていますか?
渡辺　全然ないですね。将来のことはまだ全然見えてないので。そろそろ考えなきゃな、とは思います。
岡島　法律そのものを使うというよりは、法律に関する考え方ってあるじゃないですか。こういうことがあったら、こういう根拠があるからこうなる、と論理立てて説明できる。それが将来役立つと思う。法律をそのまま使うかどうかとは別の話です。
館田　ものの考え方が役に立つということですね。
岡島　そうです。
渡辺　それは政治も同じです。そういう意味では将来につながる部分はあると思います。

試験の悩み

館田　1年生から質問はありますか。
山下　今心配なのはテストしかないです。
結城　同じく。
館田　法律学と政治学では、試験はだいぶ違いますか?
渡辺　1年生前期ではあまり違いは分からないと思う。後期の民法はなかなか厳しかったです。
岡島　俺はむしろ、民法は授業がわかりやすくて好きでした。
館田　岡島さんは大滝ゼミですね。民法が好きだと気づいたのはいつ?
岡島　1年後期の後半に、大滝先生の民法の授業を受けていた時です。
館田　1年生の皆さんは、好きな分野はありますか?
山下　土曜日の法職講座を受けていて、民法はとても楽しいです。でも、今は序盤なので楽しいですが、専門的になってくるとどう感じるかはわかりません。
結城　今はとにかくテストが心配です。とくに刑事法入門が心配です。本当に、単位が取れる気がしない。

後藤 聡 先生

山下　先輩達は取れたんですか。
渡辺　取れたよ。授業の復習をしたり、山をはったり…。
山本　渡辺くんと岡島さんに素朴な質問があります。法律の勉強と政治の勉強は違いますか?それとも似てますか?違う頭を使ってテスト勉強をしますか?
岡島　いやー、違うな…。
渡辺　違うなと思います。法律は結構決まっていることを勉強する。政治は決まっていないことが多い。
村上　法律学は枠がきちんとしていて、ちょうど証明問題を解くように公式をうまく事案に当てはめて結論を導くというスタイルなので、問題を解くためには、ある程度暗記や知識の積み上げが必要です。勉強量が多くて面倒だと感じる人もいると思いますが、最初は難しかったことも勉強を積み重ねて理解ができるようになると面白くなります。
山本　政治学は因果関係なんですよね。何か起きたときに、その原因は何かと考える。原因は茫漠としており、無数にありうるのですが、何かは言える。ただそれが本当に正しいかどうかは分からない、というところが面白いところです。僕が見聞きする限り、法律とは結構違いますね。政治学は割り切れないところが面白い。
村上　そうですね。法律学はルールという枠の中で結論を出しますが、政治学は色々な要素が複雑に絡まっていてあまりに膨大で、私には手に負えないと思いました。法律学は一定の枠内で考えればよいという限定がある分、政治学より明快かもしれませんね。

法学部への関心

館田　岡島さんはさっき法律学は格好いいと言いましたが、なぜ格好いいと思うんですか?
岡島　高校の時は、法律を使って相手を丸め込めたら格好いいと思ってました。道筋をつけて論理立てて、「こういう理屈だからおまえが

悪い」ということが言えれば、格好いいかなと。

村上　法律系の人は、そういうの好きな人多いですよね。とにかく相手を説得することに楽しみを見出す人。

岡島　今のうちのゼミでも討論をやっていて、相手を論破できたら勝ちなので楽しいです。

館田　渡辺さんはなぜ政治に興味があるんですか？　もともと政治が好きだった？

渡辺　ぼくは小学校の頃から社会系の勉強が全部好きで、なかでも政治と歴史は大好きでした。いま自分が生きているのは、全部政治じゃないですか。そして過去の歴史があって生きていると思う。高校生の時にそれに気がついて、やはり政治を勉強したいと思いました。

山本　渡辺くんが小学校から高校の頃は、ちょうど日本の政治が駄目だった時期。自民党政権がボコボコにたたかれて、民主党政権ができたはいいけれど、またボコボコにたたかれて、非常に駄目だった時なのですが、なぜそれが面白かったのですか。なにか面白いと思った政治家や事件など、政治に興味を持つきっかけがあった？

渡辺　もともと小泉さんに注目していました。小泉さんが出てきてやめちゃって、安倍さんも出てきてやめちゃって、麻生さんが出てきたけれどまたやめちゃって。そういうニュースを見るのが嫌いではありませんでした。政治家のキャラクターを見るのが面白かったです。

館田　キャラが濃い政治家が多かったですね。

山本　良くも悪くも、動いてはいましたよね。

館田　1年生のお二人は、そもそもなぜ法学部に進学したのですか？

結城　進路について高校の先生に相談したら、北海学園大学の中では将来的には法学部が一番役に立つと勧められたので、その先生を信じて法学部にしました。

館田　入学してみて、実際どうですか。

結城　難しいし奥深いです。わかってきたら面白いだろうなとは思います。

山下　私は、やりたいことが3つありました。1つはずっとスポーツをしていたので、スポーツ学部に入りたかった。2つ目は歴史や考古学に興味があったので史学をやりたかった。3つ目は法学部です。3択でした。どうしようと考えたときに、これまではスポーツを重視してきたので、ここで4年間、一生に一度でいいからしっかり勉強してみようと考えて、一番難易度が高い法学部に挑戦しました。法律は一番身近でしたし、なおかつ全く知らなかったので、未知の分野に挑戦しようと思ったのがきっかけです。何も知らない分野のほうが、勉強に明け暮れるには良いと考えました。

館田　先輩の話を聞いて、これから選ぶ学科についてはどう思いましたか？

結城　政治学は情報量が膨大すぎて手に負えないと仰っていたので、自分は型にはまっている法律学の方が合っていると思います。政治学の単位の取りやすさにも心が揺らぐのですが。

館田　大学生としては、4年間大学で過ごすことを全体で考えたときに、楽に単位をそろえて余った時間でバイトやサークルを充実させるのと、4年間みっちり勉強できる最後のチャンスだから、興味のある学問を究めてみよう、というのとどちらが魅力的かな。

渡辺　面白い方が大事だと思います。自分にとっては、政治学は面白いうえに単位も取れるから最高なんです！

岡島　俺も学問を究めているつもりはなくて、バイトもサークルもやっているので、前者だと思います。法律が難しいと感じるかどうかは人それぞれなので。俺は政治より法律のほうがいいなと思いました。

渡辺　真逆ですね。

学科の相性？

館田　学科を選ぶときに、向き不向きはある？

渡辺　あると思います。

館田　どういう人が政治に向いていて、どういう人が法律に向いているんでしょう。

岡島　ちゃんと出席できる人が政治で、独学でもなんとかできるのが法律。自分は政治学科の友達が多いんですけど、ちゃんと毎回真面目に出席しています。法律学科は、「今日は俺が出るからお前は出なくていいよ」みたいなのが結構あります。法律はあまり出席を取らないので。

渡辺　政治もあまり出席を取らないですけれど、確かに政治学は先生の話を聞き漏らすとわからなくなります。教科書に書いていないことを結構言う先生が多いです。先生の話を聞くのが大事だと思います。

村上　法律学は誰がやっても授業でやる内容はだいたい決まっているので、独学ができる人は出席していなくてもテストができますよね。でも、政治は個々の教員の個性が出ると思います。

山本　そうですね。政治学のテキストは何種類もありますけれど、その内容はそれぞれ、全く違います。ある意味、「いい加減」なんですよ。ただ論理を大事にする点では同じだと思います。同じなんですけれど、政治の場合はわからないことがたくさん残るので、えいや！って「いい加減」な説明になります。

館田　すると、岡島さんと渡辺さんは、それぞれ自分の性格に合った学科にいるということですね。1年生の二人は、自分はどっち向きだと思いますか？

結城　自分はちゃんと出席はするのですが、たまにちょっと友達にノート頼むか！という時がなくもないので、法律の方が合っていると思いました。

館田　法律の独学は難しそうな感じはしませんか。

結城　めっちゃしますね。

山下　私は政治です。違う人の意見を聞くことで視野が広がっていくと考えているので、先生のお話を聞いて、ああそうなんだという理解がほしくて。法律の方が好きなんですけど。

後藤　2、3年生の方々は、1年生が科目履修するに際して、2年次に学科を選ぶときにこんなことが有効だったとか、こんなこと考えたからこれが良かったとか、こういう科目を比較したのが良かったとか、こういう科目を取った方が良いなどのお勧めはありますか。

渡辺　一番決定的だったのは、1年後期の専門3科目です。自分も法律とちょっと悩んでいた部分もあったのですが、山本先生の現代政治学がすごく面白かったので政治学科を選びました。

村上 愛 先生

渡辺 翔太 さん

結城 郁弥 さん

山本 健太郎 先生

岡島 広希 さん

山下 涼華 さん

後藤　やはり自分と科目の相性というか、それは少し勉強してみて初めて分かったということですね。

村上　前期の入門講義というよりは、後期科目なんですね。

山本　後期科目担当者は、無茶苦茶、責任重大じゃないですか！

後藤　1年生前期をやった段階ではどうでしたか。これでこっちに傾いた、みたいな、そういう経験はないですか。やはり1年後期が決め手ですか。

岡島　1年前期だとまだ入学したてで、何もわかっていない状態で入門講義を受けます。どっちがいいとか、まだ選択できるほどの知識がない。後期に専門科目を勉強し始めると視野が広がって、俺こっちのほうが向いている、と分かってくるんじゃないかと思います。

館田　専門性が高い内容をやれば、自分に合う合わないが分かるということですね。

村上　入門講義は、そういう講義ではないんですね。

渡辺　入門講義が無駄ということではないです。後期に専門科目を受けるには、入門講義を受けておく必要があります。

館田　1年生はいま入門講義を受けていますが、高校の勉強とは違いますか？

結城　高校の時とは全然違うと思います。

山下　私は、好き嫌いもあると思いますが、政治学入門や刑事法入門は、もっとかみ砕いて説明してほしいです。全員が高校で社会科の勉強をすべてやっているわけではないので、もう少しかみ砕いて説明してほしい。今後専門性が求められるものは、簡単な所からだんだん難しくしていった方が、1年生のこのテストちょっと前の時期に、何か変わるかなぁと思います。

渡辺　高校の時に政治経済を勉強していなければ、政治学入門はすごく難しいと思う。

館田　それぞれ公法、刑事法、民事法、など個別の入門科目はありますが、法律学全体に共通する科目は、今はないですよね。

山下　意外と公法入門でやったことが民事法入門につながっていたりするので、ちょっとそこのつながりは面白いと思いました。

館田　ほかに何か、学科選択に関する情報を聞くことはありますか？

山下　まずは単位の取りやすさの情報に始まります。法律学科はヘビーで、法律学科に行くなら覚悟が必要だと言われます。政治学科なら、重い負担ばかりではないから、軽く単位の取りやすい科目を選びつつ、興味のある重い科目も究められる、そういう余裕がある。法律だとそうはいかないです。

館田　公務員志望者はどちらの学科が多いとか、こちらの学科の方が就職時にこういう職業につきやすい、といった情報は聞きますか？

結城　自分の耳には入ってきません。

山下　私は、公務員志望者は法律学科が多いと聞いています。とくに国家資格を狙う人は法律学科の勉強の方がつながると聞きました。

岡島　国家資格を取りたい人は絶対に法律に行くと思います。

館田　そういうことを1年生の時から考えて選ぶ人は多いのかな。

山下　私はそうですが、周囲の人たちを見るとそれほど真剣に考えておらず、世渡り上手に見えます。私は考えすぎなのか、自分でちょっと不安です。

それぞれの学科をアピール

館田　1年生はそれぞれの学科のイメージはできましたか。

結城　以前は、政治の方が単位を取りやすいというイメージしかありませんでしたが、両学科のメリット・デメリットをよく考えて、自分に向いている方を選択したいと思います。

山下　私は政治向きだと思いました。今日の座談会では、政治には決まった範囲がなく、自分の考え以外のことも勉強できると知りました。こういう話は、他のみんなにも聞いてほしいです。先輩から学科のアピールを聞ければ、「実はそっちに行きたいんだよな」って思う人が結構いると思います。

館田　それでは、最後にそれぞれの学科のアピールをしておきましょうか。

岡島　法律学を学んでおくと、話の仕方や、将来仕事に就いた時でも、法律の三段論法とか、道筋を立てて話ができるようになります。法律学科で法律を学びましょう！

渡辺　政治学科は、単位が取りやすい分、自分の時間を確保することができますし、勉強したければいくらでも奥深く勉強できます。1年生の皆さんは、とりあえず後期一生懸命勉強して、政治学科を選ぶといいと思います。

館田　勉強って、自分が面白いと思えないと続かないものです。嫌々やる勉強って辛いですよね。1年生のうちに面白いと思える科目を見つけて、そこから学科を選ぶのが、長い目で見て後悔しない選択かなと思います。それでは座談会はこれで終わります。どうもありがとうございました。

山本先生から一言

今は役に立つかどうかが問われる時代になっていますが、大学の勉強が役に立つか立たないかという点からいえば、ハッキリ言って政治学も法律学も、どちらもすぐには役に立ちません。僕は、大学の勉強に対しては、役に立つかどうかはとりあえずは求めないほうがいいと思います。いま役立つということは、すぐ役立たずになるということの裏返しです。それよりむしろ、何か困ったことがあれば原因を考えてみるとか、それを法律で解決するにはどうすればいいか考えてみるとか、本質的な部分で役に立つことが多々あるのです。だから、これをやれば公務員試験に役に立つとか、そういう短期的なことよりも、自分はどちらが好きとか、どちらをより深めてみたいとか、という本質的なところで選ぶ方がいいです。大学の勉強って、短期的には役に立たないけれど、長期的には役立つものなのです。そのあたりに着目して学科を選ぶのが大事だと思います。

（構成：鈴木光）

私の こだわり

第2回

近著『映画は中国を目指す』(洋泉社・2015年)を持って

中根 研一 先生

中根先生は、横浜国立大学教育学部を卒業、北海道大学大学院文学研究科博士後期課程を修了後、2008年本学着任。研究テーマは中国の怪獣や未確認動物に関する伝説。特に中国の野人(中国版雪男)に詳しい。聞き手は黒瀧詩織里(法学部4年)、後藤聡先生、松浦和宏先生(撮影)、鈴木光。

鈴木　温厚で紳士的な中根先生がプロレスラーとは意外です。いつからその道に。

中根　母のお腹にいた時から胎教でプロレスを楽しんでいたようです。ただし子供の頃は、親から「怖いから見ちゃダメ」と言われていました。小学校高学年の時、タイガーマスクという覆面レスラーが現れ、それをきっかけに熱中するようになりました。

黒瀧　昔はテレビでよくプロレスを放送していたのですか。

中根　ええ。金曜夜8時のゴールデンタイムにプロレス放送があり、男の子はみんな見ていたと思います。当時は土曜日も学校がありましたから、プロレスを見ていないと翌日の会話の輪の中に入れませんでした。

鈴木　プロレスを見るだけでなく、実際にやってみようと思われたのは。

中根　私は身体が弱く内気な少年で、いじめられっ子でした。それで変身願望があり、リングの中のプロレスラーに憧れていたのです。祖父は日本体育大学出身の体育教師で、オリンピックを目指していたような人でした。その隔世遺伝かも知れません(笑)。高校3年の時、大学では何か格闘技をやりたいと考えていたら、担任の先生が横浜国立大学には学生プロレスがあるぞと教えてくれました。その一言で進学先を決めたのです。

鈴木　人生、何がきっかけになるか分からないですね。大学時代はどのような活動を。

中根　予定通りプロレスサークルに入り、関東学生プロレス連盟(UWF)にも所属し、学園祭などイベントがあるごとにトラックでリングを運んで試合をしました。商店街や地方のお祭りにも行きました。無償の興行、巡業ですね。小さいながらも自分の大学内で、チャンピオンベルトを巻いたこともあります。90年代初頭には、九州・関西・関東の学生による全国学生プロレスサミットが開かれ、テレビで深夜放送されました。私もテレビに出ましたし、レンタルビデオにもなりました。

黒瀧　レンタルビデオ!!すごいですね…

松浦　学生時代には、どのようなトレーニングをなさったのですか。

中根　明治大学のアマチュアレスリング場をお借りして、ひたすらグラウンド*1を取り合う練習をしました。プロレスは受け身が大事で、相手の技をきちんと受けないと怪我をしますので、後ろ受け身、前受け身、倒立受け身をひたすら練習します。しかも見栄えのする受け身を取らなければなりません。そのほか、技をかけて返すを繰り返したり、プロテインを飲んだり、良いと言われる試合を見てイメージトレーニングをしたり。今はトレーニング不足で授業中に足がつることもありますが(笑)。

後藤　リングネームは。

中根　「ザ・ボランティア」です。当時ボランティア活動をしており、リングに上がっても善人で優しいというキャラクターで活動していました。

後藤　入場テーマ曲もあるのですか。

中根　もちろんあります。フロム・ザ・ニューワールドのシンセサイザーアレンジバージョンです。これを聞くと、今も歩き方が自然と変わります。

鈴木　すみません、本日は司会の不手際で、入場テーマをご用意しませんでした…

中根　いえいえ。でも私にとっては大切な曲です。現在でも、論文を書いていて行き詰まるとこの曲をかけます。すると、すぐやる気が出ます!

黒瀧　必殺技は何ですか。

中根　相手を逆さまにして肩から落としフォールに持ち込むパワーボム、さらにそこへブリッジをするジャックナイフ式パワーボムです。フライングボディーアタックも使いました。相手をロープに振り、戻ってくるところへこちらもカウンターから斜めに飛び、互いの身体がクロスするように浴びせ倒しをし、そのまま

*2 フライングボディーアタックをする中根先生(上)。

フォールに入る技です。要するに飛んで行ってボディーでアタックという、ネーミングそのままの技です*2。

後藤　プロレスは試合中に大声を出しますよね。中根先生も叫ぶのですか。

中根　はい。大声は、気合を入れる意味もありますが、一つの儀式でもあり、現実から虚構の世界へと心地よく入ってゆくためのものでもあります。私の場合、「でやーっ!」とか「そりゃっ!」などと叫びます。

後藤　プロレスの世界には悪役がいるようですが、先生は何役でしたか。

中根　悪役やお笑い役など、いろいろ試しましたがパッとせず、最終的には奇をてらわずに地味な技で魅せるのが良いことに気づき、派手さはなくとも基本的な技で戦うスタイルに落ち着き、4年生までやり切りました。目立つことはなかったものの、怪我せず最後まで続けられたのは幸いでした。無事これ名馬です*3。

鈴木　先生は四川大学へ留学されましたね。中国でもプロレスをなさったのですか。

中根　留学1か月目でプロレス大会を計画しました。

これがその後の私の人生を大きく左右することになります。大会準備のため中国のスポーツ店に行くと、たまたま商品の包み紙として置いてあった新聞に目が留まりました。そこに野人のニュースが載っていたのです!それで、よし野人を探しに行こうと探検旅行に出たのが野人研究の始まりです。中国でプロレス大会を開こうと思わなければ、たぶん私、今ここにいないです(笑)。

鈴木　またもや人生、何がきっかけになるか分からないですね。現在はどのようなご活動を。

中根　現役レスラーは引退しましたが、たまに無償でプロレスを見せるアマチュアプロレス団体の試合で、レフリーを務めています。

[注釈]　*1 グラウンドとは、寝ている状態のこと。またはその状態でかける技のこと。　*3 能力が多少劣るとも、怪我なく無事に走り続ける馬は名馬である、という考え。　*4 塞翁失馬。災いと福とは代わる代わるやってくるということ。

鈴木　北海学園大学にはプロレスサークルはないのですか。

中根　今はなさそうですね…でも昔は盛んだったようです。札幌にはプロレスの聖地といわれる中島体育センターがありました。古い映像を見ると、北海学園大学のプロレスサークルが横断幕を掲げて応援する様子が映っています。学生プロレスは、きつい・汚い・カッコ悪いの3Kで敬遠されがちですが、今も人を盛り上げて楽しませようとするピュアな学生たちはきっといます。もし本学にサークルがあればぜひ応援したいですね。

鈴木　そろそろまとめに入りましょう。プロレスを通じて得たものは何でしょうか。

中根　たくさんあります。第一に、プロレスなんぞをやっていると人に覚えてもらいやすいという利点があります。第二にプロレスを通じて意外な世界が広がります。中国でプロレスをやらなければ、後の研究テーマとなる野人にはアクセスできませんでした。第三に、度胸がつきました。後楽園ホールで2000名のお客さんを前に試合をしたこともあります。おかげで授業や研究発表では、どれほど大勢の人がいても緊張しません。第四にどんな困難も楽しめるようになりました。プロレスはやられている時こそが見せ場で、お客さんが盛り上がりますので、辛い時も楽しめます。今はやられても、あとで反撃して盛り上げられるぞと思うと、むしろ苦境を楽しめるようになるのです。

鈴木　プロレスって素晴らしいですね。最後に読者の皆様へメッセージをお願いします。

中根　学生さんには、大学生活で何か夢中になれる面白いことを見つけたら、どんどん挑戦してほしいと思います。そして親御さんには、お子さんの気が済むまで好きなことをゆっくりやらせてあげてほしい。もしかすると意外とそれが将来大きな意味を持つかもしれません。後々何が役に立つかなんて、始めるときには誰にもわかりません。私の座右の銘は「人間万事、塞翁が馬」[*4] です。私自身、親からプロレスを見るなと言われて育ち、しかしプロレスをやって今ここにおりますので…。少なくとも、自分の経験からはそう言えます。

鈴木　感動的なメッセージをありがとうございます!!

中根　あ、しかし責任はとれませんよ。あとは自分で切り開いてくださいね。「この道を行けばどうなるものか、危ぶむなかれ。危ぶめば道はなし。踏み出せばその一足が道となる。迷わず行けよ。行けばわかるさ」。

自著を語る　中村 敏子

「トマス・ホッブズの母権論 ―国家の権力 家族の権力」

法政大学出版局／ 2017 年

40 数年前に、男子学生には机に山積みになるほど会社案内が来るのに、女性である私にはただの一通も来ないという就活経験をして以来、人間の自由と平等を主張する現在の社会で、なぜ女性は平等に扱われないのかという問題を考え続けてきました。本書はそれに対する一応の解答の意味を持っています。

男女を完全に平等に扱った思想家は古今ほとんどいないのですが、ホッブズは、その稀に見るひとりでした。本書で分析したように、西洋キリスト教世界では、聖書の「創世記」における女性は男性に従うべしという神の命令と、アリストテレスの影響を受けた女性と男性の肉体的形態の違いが根拠となって、女性に対する抑圧が正当化されて来ました。

それに対してホッブズは、神を全く登場させず、男女が完全に平等な自然状態から人間社会における支配がどのように成立するかを考えました。また、女性と子どもとの関係において、女性が権力を持つとも論じました。その際権力は、子どもを産むという女性の肉体的特徴から生じたのではなく、子どもがその支配に合意したからだとしたのです。現在でも女性が人間集団のトップに立って権力を持つことは当たり前だと考えられてはおらず、また、女性の肉体的特徴が女性に対する差別の口実として使われるのに対し、こうしたホッブズの議論は現在でも画期的な内容と評価することができます。

私は、男女を対等に扱う日本の思想家福沢諭吉についても研究してきました。その結果言えるのは、西洋と日本では女性の状況や家族構造が全く異なるので、それぞれの女性をめぐる問題の解決には異なる道筋が必要だということです。就職の機会そのものについては改善されたにしても、特に子どもを産みながら働く女性の状況は、40 年前より良くなっているようには思えません。これから社会に出ていく学生のみなさんは、こうしたことをふまえた上で、それぞれが生きやすい社会をめざしてほしいと思います。

学部長挨拶　最善手なき法律学、政治学の世界へようこそ

学部長
樽見 弘紀

将棋をよくしませんが、前人未到の公式戦 29 連勝を成し遂げた中学生棋士・藤井聡太四段の快進撃には度肝を抜かれました。トップ棋士が自学自習のディープラーニング／AI にことごとく負かされる時代に、逆にその宿敵たる AI に虚心に学びながら年長棋士や上位棋士を次々と打ち負かすだけの場数と胆力を身につけたのですから、僕のような門外漢にも興味は尽きません。

同じような現象は、実は足下の高等教育の現場でも起きています。

例えば、YouTube 筆頭の動画共有サービスの登場で、学生が「世界で一番受けたい授業」や「肌合いの良い教師」を手中に収めるに毎日学校に通うことも、4 月ごとに授業料を収めることも必要としない時代の到来があります。

最後の最後には、滋味あふれる、血の通った教育という面でリアルな学校、生身の教員の側に分があるのだ、と「生身の教員」の一人として高を括りたいのはやまやまですが、しかし、VR（ヴァーチャルリアリティ）の技術が実教室や生教師を凌駕する日は来ることはない、と誰が断言できましょう。

さはさりながら、法学部教育が、「板書」に代表されるローテクなライブ授業や、学生の一人ひとりと愚直に向き合うゼミナール教育を諦めないのは、法律学や政治学が究極的には人と人との悩み多き関係性の機微、迷い多き意思決定の日々を扱う学問であることと無関係ではないように思います。法律の世界、政治の世界では、最善手の有る無しはもとより、指し手は誰か、ゲームのルールは何かさえも往々にして隠されるのです。

この 4 月から学部長の任に再び就くにあたり、自身の肝に銘じた禁じ手がいくつかあります。一つには、奇を衒うな。一つには、結果を急ぐな。さらに一つには成功体験に安住するな、です。いずれも新し物好きの僕がとかく陥りがちな性向に対する禁忌でありまして、実に、言うは易く「行わない」は難し、でありますが、法学部の学生、教職員のみなさんと熟議を重ねながら、さらに「（リアルに）通うに足りる学園法学部」の実現に全力を尽くす所存です。ご支援のほど何卒よろしくお願いします。

OB・OG 友達紹介 第9回

久米（くめ） 一輝（かずき） さん
（株式会社モロオ勤務）

――前回登場の福田杏紗子さん（連載第８回）から、久米さんは「法学部の半分が友達のような凄い人」との紹介を受けました。事実ですか?

「法学部の半分」はいくらなんでも……（笑）。ただ、学部時代、頼まれもしないのに友達の誕生日を勝手に祝うことを年間 40 人分くらいやっていました。たとえば、レンタカー屋さんで借りてきたワゴン車の車内をお誕生日会仕様に飾り立てて、その日が誕生日の男をみんなで車内に拉致し、クラッカーを鳴らして驚かせました。突然のことに大喜びする本人を札幌の夜景一望の旭山記念公園の頂上まで連れていき、デコレーションケーキを見せてさらに喜ばせたあと、顔にぶつけてみんなで笑いころげました。福田さんも拉致犯の一人でした（笑）。

――久米さんのその旺盛なサービス精神は何由来ですか?

高校教師の父親譲りだと思います。熱血教師を絵に描いたような人ですが、子育てにも手を抜かず熱心でして、良い思い出しかありません。学園法学部に入学したのも父のアドバイスに従ってのことでした。現在、利尻島の高校に単身赴任していますが、こないだも会社の休みを利用して利尻の父のところに遊びに行ってきました。僕はまだ独身ですが、いつの日か「親がつくってくれた家庭を越える」が目標なんです。

――現在のお仕事は?

医薬品卸の会社の札幌本社でマーケティングの仕事をしています。製薬会社と医療機関をつなぐ仕事です。入社して最初の配属地だった函館から札幌に戻ったばかりですが、函館時代は営業でしたので、病院の先生に「久米に頼めば何でもすぐに解決してくれる」と言っていただけるよう頑張っていましたね。夜、ドクターにご馳走していただく機会も多く、そのせいか、半年で８キロ太りました。あ、札幌に戻ったらすぐに４キロ痩せまして今日に至るです（笑）。

――ゼミは誰先生でしたか?

基礎ゼミは加藤（信行）先生、専門ゼミは菅原（寧格）先生でした。菅原先生の第一印象は「真面目でクールな先生」でしたが、それが「飲むと饒舌で面白い先生」に変わるのに時間はかかりませんでした。菅原先生からは議論することの大切さを徹底的に教わりました。

――法学部時代から今まで一貫してやっていること、ありますか?

学生時代も、現在の仕事に就いてからも変わらずモットーにしてきたことがありまして、それは「自分がされて嬉しいことを相手にする」です。当たり前のようでいてなかなか難しいことですが、続けていればやがて誰かに正当に評価してもらえる、との心意気で続けています。

――最後に、次の「法学部卒」の方をご紹介ください。

はい。では、次は法学部を卒業後、北海学園大学に就職した安達丈さんを紹介させてください。

――さっそくの「自分がされて嬉しいことを」ですね。近くて取材大助かりです（笑）。お忙しいところありがとうございました。

（次号に続く）

新任教員のご紹介

官田 光史 先生

1999年、横浜市立大学国際文化学部卒業。2005年、九州大学大学院比較社会文化学府博士後期課程単位取得退学。日本学術振興会特別研究員、国立公文書館公文書専門員、九州大学百年史編集室助教等を経て、現職。

2018年度 法学部 各種入試一覧

課題小論文特別入学試験

募集人員：2部法学部 26名
出願期間：2017年11月1日（水）から
［郵送］9日（木）消印有効
［窓口］10日（金）午後4時締切
試 験 日：2017年11月26日（日）

社会人特別入学試験

Ⅰ期（面接）
募集人員：2部法学部 15名
出願期間：2017年11月1日（水）から
［郵送］9日（木）消印有効
［窓口］10日（金）午後4時締切
試 験 日：2017年11月26日（日）

Ⅱ期（面接・小論文）
募集人員：2部法学部 面接 15名 小論文 10名
出願期間：2018年2月13日（火）から
［郵送］20日（火）消印有効
［窓口］21日（水）午後4時締切
試 験 日：2018年3月3日（土）

法学部編入学試験

募集人員：［2年次一般］
1部2部法律学科・政治学科
各若干名
［3年次一般・推薦］
1部法律学科 20名（推薦を含む）
1部政治学科 10名（推薦を含む）
2部法律学科・政治学科 各若干名

Ⅰ期（3年次一般・推薦）
出願期間：2017年9月27日（水）～10月6日（金）
試 験 日：2017年10月21日（土）

Ⅱ期（2年次一般・3年次一般・推薦）
出願期間：2018年1月19日（金）～1月29日（月）
試 験 日：2018年2月17日（土）

出願資格、必要書類などについてのお問合せ先

［課題小論文特別入試・社会人特別入試］
入試部　電話 011-841-1161
［それ以外の入試］
法学部事務室
電話 011-841-1161（内線2229）
FAX 011-824-7729

北海学園大学法学部報 第37号［2017年8月20日発行］
発行：北海学園大学法学部
〒062-8605 札幌市豊平区旭町4丁目1番40号
TEL：011-841-1161（代）FAX：011-824-7729
印刷：中西印刷株式会社
デザイン：畠山尚デザイン制作室
写真撮影：芦田和義（札幌コマーシャルフォト）※表紙
表紙モデル：結城郁弥さん（1年生）
企画・編集：北原 博、後藤 聡、鈴木 光、瀬川行太、館田晶子、樽見弘紀、中根研一